# 日光スポーツクラブ

## ― 新たな形への挑戦 ―

NIKKO SPORT CLUB

S·P·O·R·T

# 背 景

私たちの日光市では、少子高齢化率が国や県の数値を上回る勢いで急速に進んでいます。15歳未満の子どもの数は**1995年には約16,000人**だったものが、**2015年には約9,000人まで減少（44%減少）**し、市内全域であらゆるスポーツ少年団において団員の減少に歯止めがかかりません。

現在、日光市の少年サッカーには休止中のチームも含め全13チームが存在し、上都賀リーグには11チームが参加しています。しかし、どのチームも選手不足が深刻で、トップチームに低学年の選手を参加させることでギリギリ活動しているチームも少なくありません。

過去、旧粟野町では6チームが活動していましたが、現在は1チームにまで減り、他のチームは自然淘汰されていきました。その結果、子どもたちは通学圏での身近にサッカーができる環境を失いました。同時に多くの指導者や審判員も活動の場を失い、少年サッカーの世界から離れて行ってしまいました。

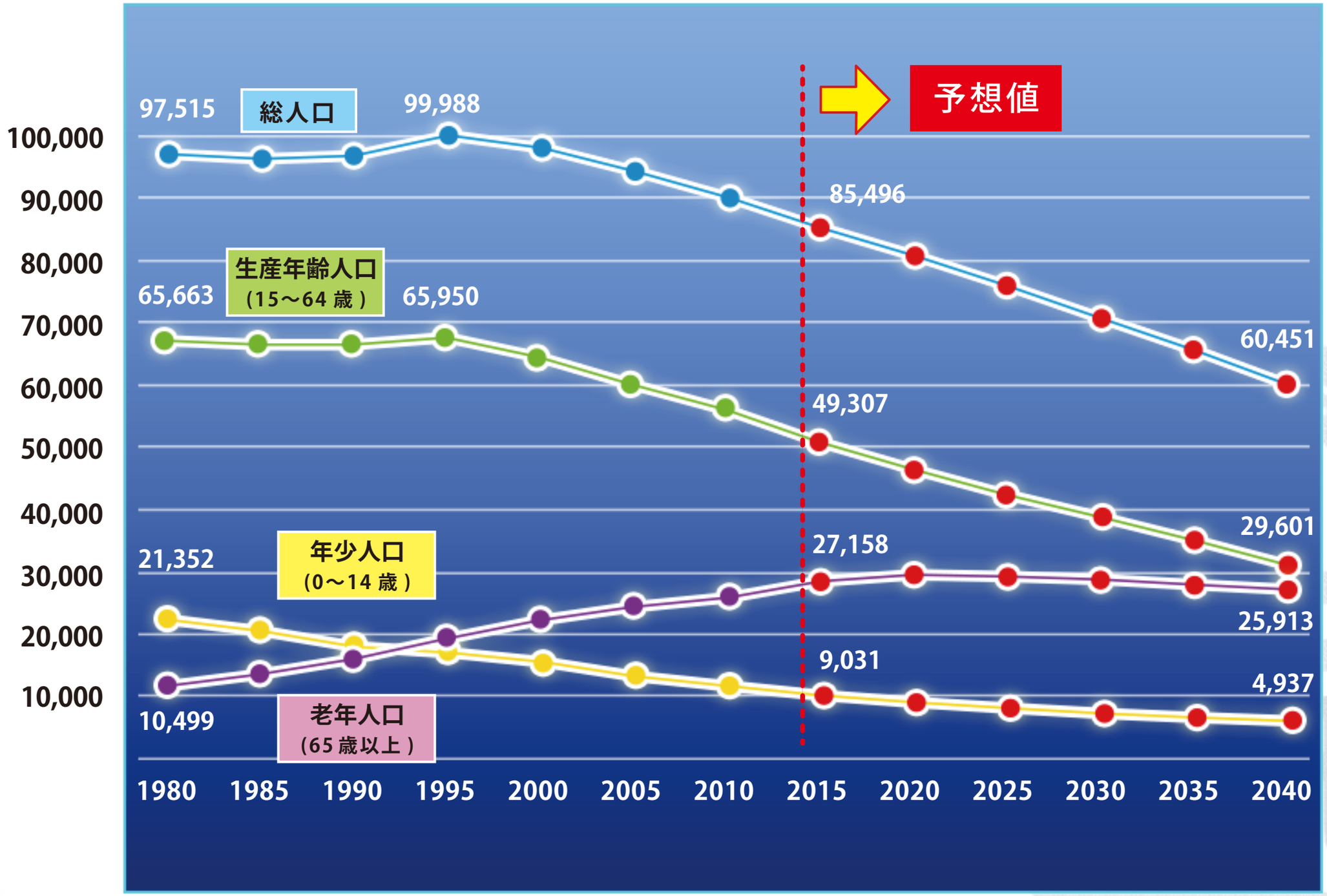
**2025年、日光市の15歳未満の子どもの数は約6,800人まで減少する**と予測されており、このままでは、日光市全体でも団員の大幅減少により、多くのチームが消滅してしまうことが予想されます。

日光市の人口推移

（日光市人口ビジョンH27.8）

| | 全人口 | 15歳未満 |
|---|---|---|
| 1995年 | 99,988人 | 15,922人 |
| 2005年 | 94,291人 | 12,208人 |
| 2015年 | **85,496人** | **9,031人** |
| | **20年で15%減** | **20年で44%減** |

# 日光市の年齢３区分別人口の推移




（日光市人口ビジョンH27.8参考）

# 課題・問題点

## ①スポーツに触れる場の減少

子どもはスポーツを行うことによって**「基礎体力の向上」「免疫力の向上」「チャレンジする勇気」「目標達成力の向上」「優しく強い心が育つ」**など、様々なメリットを得ることができます。今後、加速度的な少子化によって各地域のスポーツチームが減少し、子どもがスポーツに触れられる場が減少すると、こうしたスポーツによるメリットを得ることが難しくなります。したいスポーツが身近にできることは、子どもにとってとても大切なことです。サッカーがしたくても、住んでいる地域にチームがなくなってしまえば、子どもたちは身近にサッカーができる環境を失ってしまうことになります。

## ② 競技力の低下

現在、市内のほとんどのチームが同学年で試合を行うのに充分な人数に満たないため、６年生に４年生が入って試合を行うなど、学年を超えて人数を補填しています。このことは競技力向上の大きな妨げとなっています。**子どもが伸びていく最も大きな要素のひとつは「競い合う」ことです。**しかし、学年が違えば本気の競い合いはうまれにくくなってしまいます。現状では団員が足りないため、同学年で上達を競い合ったり、レギュラーを競い合うことがなく、競技力向上のための理想的な環境とは言えません。

## ③二極化によるモチベーションの低下

近年、「志向の二極化」が急激に進んでいます。一つは競技志向で、本気で、全力でスポーツに打ち込む子ども、保護者です。もう一つは競技力向上よりも運動をすること自体が目的で、ゆるく楽しくというタイプの子ども、保護者です。**現状では、志向の違う子どもたちが一つのチームで活動しており、モチベーションに温度差が生まれています。**こうした環境では、切磋琢磨して上達するのは簡単なことではなく、どちらにとってもよい環境ではありません。

## ④優秀なスタッフ・コーチの損失

地域に根ざしていたチームの減少・消滅によって、スポーツ指導に情熱を持ち、長く指導に携わってきた経験豊かな人材や、ライセンスを持った優秀な指導者を失ってしまうことになります。こうした人材がスポーツ指導の現場から消えていくことは、子どもにとっても大きな損失と言えます。

# 日光スポーツクラブの提案

これらの背景や課題・問題点を考慮すると、日光市の子どもたちによりよいスポーツ環境を残していくためには、**現状を打破する新しい形のスポーツクラブ**が必要不可欠です。少年サッカーは、前述のとおり現在１１チームが上都賀リーグに参加していますが、毎年の子どもの減少を考えると、５年後には半数近くに減ることが予想されます。**まさに待ったなしのギリギリの状況**と言えます。

今こそ新しい形のスポーツクラブを創設し、未来へのかけ橋を築き上げる時です。
それは、今現在、少年サッカーに関わっている私たち大人の大きな使命ではないでしょうか。

そこで、新しい形のスポーツクラブ **「日光スポーツクラブの設立」**を提案します。

日光スポーツクラブでは、各地域のチームの指導者・スタッフ、保護者が結集し、力を合わせて日光市の現状を打破していきます。そして、**地域チーム単体ではできない活動を展開していきます。**

クラブの最大の特徴は「地域支部制」です。これまで地域に根をはって活動してきたチームは「支部」としての役割を受け持ち、これまで通りの活動を続けます。通学地域において身近にサッカーができる環境を残すことができ、保護者の送迎も軽減できます。

**そして、週末は一堂に会して、同じ学年で競い合いができる環境をつくり、意欲と向上心を刺激して大きく成長できる機会を提供します。また、競技力向上を目指すチームだけではなく、楽しくゆるくスポーツに親しみたいというこどものための活動の場も提供します。**

日光の子どもたちの１０年後、２０年後、５０年後の未来に向けた最高のスポーツ環境を築き上げていくこと、これこそがこのクラブの最大の目的です。

今年はなんとかチームを
組めるけど、2~3年後は
単独では無理…。
チーム存続の危機！

困ったなぁ…子どもが
少なくてチームが
組めないヨ！

# 日光市の現状

- ほとんどのチームで学年チームが組めない
- 3年生と5年生が一緒に試合をしている
- チーム存続の危機的状況にある
- 今年は存続できるが、数年後は分からない
- 子どもの競技力を伸ばす環境が整っていない

もっと上手になりたい！
強くなりたい！けど競い合える
同級生がいないんだ…

３年生と６年生が同じ
練習や試合に出るのは
好ましくないよな～

# 数年後……

このまま手を打たなければ
数年後には多くのチームが消滅し、
身近にサッカーができる環境や
指導者が失われてしまう！

# 日光スポーツクラブ
# という大きな木

どの支部でも最高の指導を目指す
指導スタッフのトレーニングを
受けることが可能になります。

少子化によるチーム消滅、
育成環境の悪化に歯止めをかけ、
より良いスポーツ環境を
築き上げる最善の方法です。

私たちは信念を持って
このクラブの設立・運営に
チャレンジして参ります。

消滅してしまった地域での
チームの復活
新しい地域での支部発足

地域に根ざすことで
地域コミュニティとしての
役割を担います。

少人数でも支部活動が
可能となり、週末の
セントラルで多くの仲間と
サッカーができるようになります。

既存のチーム名を支部名とし、スポーツ少年団は支部で登録可能とします。
チーム名や活動場所はずっとそのままなのでOBが帰る場所を残せます。

# 日光スポーツクラブ
# 10のチャレンジ！

日光スポーツクラブは、地域独自のアイデアを生かしながら、夢は大きく、世界基準のスポーツクラブを目指します。クラブの具体的な施策として、以下の活動にチャレンジしていきます。

**①新しい形の活動にチャレンジ**

**②夢へのチャレンジ**

**③指導者育成へのチャレンジ**

**④共通指導メソッドへのチャレンジ**

**⑤本物に触れるチャレンジ**

**⑥保護者のチャレンジ**

**⑦地域密着へのチャレンジ**

**⑧生涯スポーツへのチャレンジ**

**⑨総合型スポーツクラブへのチャレンジ**

**⑩世界で活躍する「日光人」の育成にチャレンジ**

# 日光スポーツクラブのチャレンジ

## ① 新しい形の活動にチャレンジ

これまでの地域チームを支部として存続することにより、平日は通学圏で身近にスポーツができる環境を確保します。また、週末の土日などに一堂に会し合同練習（セントラル）を行います。これにより、同学年での練習や試合が可能となり、**「地域では１番だけど、合同練習ではもっと上手な選手がいる」**という状況を作り出します。子どもの意欲・競争心・向上心を大いに刺激することによって、競技力向上につなげることが可能になります。

人数や競技力に応じたチーム編成をすることで、多くの子どもたちが主力して試合に参加でき、競技力に応じた きめ細かい指導が可能となります。

## ② 夢へのチャレンジ

合同練習（セントラル）の先には、合同チーム（セントラルチーム）の編成を行います。
**競技力向上と夢への挑戦を目標とした「チャレンジチーム」と、サッカーの楽しさや体力づくり、仲間づくりを目的とした「エンジョイチーム」を編成します。**

チャレンジチームは県大会や全国大会へのチャレンジを行い、選手としても県トレ選手やナショトレ選手にチャレンジしていきます。本気で上を目指す選手、向上心が強い選手の受け皿となり、指導者も全力で向き合っていきます。

## ③ 指導者育成へのチャレンジ

支部となる地域チーム、セントラルで指導する指導者・スタッフは常に学び続けます。長年地域で活動してきた経験豊かな指導者も例外なく常に学びます。また、**各地域で巣立っていった若いOBや志ある人材を積極的に迎え入れ、指導ライセンスの取得や現場での経験を重ねることによって指導者の育成を図っていきます。**そしてゆくゆくは、中学校部活動への協力（外部指導者の派遣）やプロの指導者の輩出をも視野に入れて、質の高い指導者の育成にチャレンジしていきます。

## ④ 共通指導メソッドへのチャレンジ

地域支部制による新たな形での指導は、その内容や方針がバラバラでは同じクラブとは言えません。**統一した指導メソッドを構築し、どの支部でも共通の質の高い指導を受けられるようチャレンジしていきます。**セントラル（合同練習）で、学んだことや覚えたことをその週の平日に地域支部で練習し、次のセントラルで成果を確認して、次の課題にチャレンジしていきます。

試合はその練習成果がどれだけ発揮できるかがテーマのひとつになります。基本的には個の技術、特にボールコントロールやドリブルをベースにチームプレーを構築していくことを強く押し出していきます。

## ⑤ 本物に触れるチャレンジ

**Jリーガーや一流の指導者、他競技の第一人者などをゲスト講師に迎え入れ、特別指導を行うプラスワンにチャレンジします。**「本物」に触れ、体験し、特別な刺激・感動を受けることで、大きく伸びるきっかけを作り出していきます。

## ⑥ 保護者のチャレンジ

しつけ、食育、教育、子育て全般にわたり、各分野の講師をゲストに招き、保護者向けの特別セミナーを開催します。**子どもの能力や可能性を最大限に引き出す「子育てに有益な情報・機会」を提供し、「子どものために学びたい」「子どものために行動したい」という保護者の皆様のチャレンジをバックアップします。**

また、子どもと一緒に体を動かしたいという保護者の方々には、審判員やアシスタントコーチとして活躍できる場もあります。未経験でも始められるよう、活躍中の審判員やコーチが皆さんに寄り添ったアドバイスを行い、楽しく活動できるようサポートします。

## ⑦ 地域密着へのチャレンジ

地域に根ざし、身近で質の高いスポーツ環境を構築していくには、それぞれの地域と密接で良好な関係が必要不可欠です。例えば、**子どもたちに地域の伝統行事の大切さを伝えて参加を促したり、地域の清掃活動を行なうなど、地域から様々な形で応援してもらえるようにチャレンジしていきます。**

子どもたちの元気なあいさつは地域を明るく元気にするはずです。また、地域のおじいちゃんおばあちゃんや、地域の事業主を招待して試合を観戦してもらうなど、これまで以上に地域に根ざしたクラブを意識して活動していきます。

## ⑧ 生涯スポーツへのチャレンジ

セントラルチームの運営が安定してきたのちには、**同様の仕組みを拡大し、幼児クラスや女子チーム、ジュニアユースの創設を目指します。**さらには、社会人チーム、シニアチーム、フットサルチームを創設し、生涯スポーツとしてサッカーを楽しめるクラブへと発展させていきます。

また、高齢者・障害者の方にも、それぞれの身体の状態に応じて気軽にスポーツを楽しめるような取り組みにもチャレンジしていきます。

## ⑨ 総合型スポーツクラブへのチャレンジ

少子化、スポーツ離れで活動が困難になっているのは他競技も同じです。サッカーでの取り組みが成功モデルとなれば、他競技との協力・連携を図り、総合型スポーツクラブ(※1)へ発展させることが可能となります。

総合型になることで、子どもは他競技の練習をしたり試合をしたりするなど、交流を図ることが可能になります。これにより、単一種目による偏った成長ではなく、バランスのとれた身体的成長も期待できます。**複数の種目を幼児から高齢者まで、健常者・障害者、競技志向・エンジョイ志向問わず、多種多様なスポーツニーズに応えていく、本当の意味での総合型地域スポーツクラブを目指してチャレンジしていきます。**

※1「総合型地域スポーツクラブ」⇒文部科学省は、２０００年（平成１２年）スポーツ振興法により「スポーツ振興基本計画」を策定・公表し、この中で市町村に明確な役割を持たせました。その一つが、生涯スポーツ社会の実現に向けて、２０１０年までに一つ以上の総合型地域スポーツクラブを育成することでした。少子高齢化・地域社会の機能低下などで、スポーツを取り巻く環境が大きく変化してきていることを踏まえ、新しい形でのスポーツ環境整備が求められ、「多種目」「多世代」「多志向」で構成されたスポーツクラブ、すなわち総合型地域スポーツクラブを設置することで、地域におけるスポーツ文化の確立を目指したのです。平成２３年にスポーツ振興法はスポーツ基本法に変わり、従来の「振興」から「推進」へと移行していくものとなりました。

## ⑩ 世界で活躍する「日光人」の育成にチャレンジ

世界を視野に入れて、世界で活躍できる人材の育成と、郷土に活力を与えられる人材の育成にチャレンジしていきます。国際観光立市を目指す日光市の市民として、グローバルな感性とポスピタリティを身につけ、将来は世界で活躍する人材、日光市の発展に貢献する人材の育成を目指します。
一見、スポーツと無関係に思われますが、日光市は誰もが認める日本有数の観光立市です。

**1）東京・埼玉など都市部から、東北福島からの交通アクセスがよく、整備されている。**
**（JR、東武、野岩の三鉄道、東北道、宇都宮日光道など）**
**2）いくつもの温泉宿泊地があり、旅館・ホテル等、全国屈指の宿泊施設を有している。**
**3）日光国立公園の中にあり、自然豊かで多種多様な活動が可能。**

これらの条件が整っているのは非常に恵まれているといえます。**東京・埼玉などの都市圏のチームに向けて、大会を催したり、合宿地としてPRすることで多くのチームに日光を訪れてもらいます。大会を主催するホストチームになり、あるいは合宿の対戦相手を積極的に引き受けて、日光を代表するクラブとして交流を図ります。**幼少期からこうした経験を培うことで、グローバルな感性とホスピタリティあふれる「日光人」の育成に寄与し、スポーツツーリズムの一役を担うクラブを目指します。

# スポーツの本質

近年、子どもどうしの「競い合い」を避けることで、子どもの偏見や差別をなくし、平等意識を持たせようとする風潮があります。ある小学校の運動会では、徒競争が子どもに順列をつけてしまうと問題視され、行われなくなりました。持久走大会では順位を競い合うのではなく、時間内で走った距離を申告するという形になっています。

**こうした取り組みは、足の遅い子どもへの配慮であり、子どもの偏見や差別をなくすために行われているわけです。しかし、多くの人々がこのような形での「平等意識を持たせる教育」に疑問を持ち、もっと別の方法があるのではと感じています。**

スポーツの本質は、同じルールの下、全力の真剣勝負で勝ち負けを競い合い、自分の可能性に挑戦していくところにあります。２０１６年はリオ・オリンピック、パラリンピックが開催されましたが、パラリンピックに出場している障害を抱えた選手に「君は障害があるから勝敗に関係のない運動で楽しみなさい」と一体誰が言えるでしょうか？

パラリンピックに出場している選手の誰もが、勝敗にこだわり、全力で競い合うことを楽しんでいるのです。これこそまさにスポーツの本質です。

# スポーツの意義

子どもたちには、「体を動かしたい欲求」「競争をしたい欲求」「仲間や大人に認められたい欲求」「できるようになりたい欲求」「知りたい、成長したい欲求」など様々な欲求があります。**スポーツはこうした本来子どもの中にある欲求を満たし、体力を向上させ、さらには心も強くします。また、個性を認め合うことや、目標を達成する力、協調性や積極性など、総合的な人間力も養います。**

子どもたちはスポーツでの様々な経験を通して大きく成長していきます。スポーツでの経験は、「自立して生きる力」を養うだけでなく、良い習慣を生み、社会に出た後も人生のあらゆる場面で自分の力になり、人の力になります。自分を励まし、人を励まし、スポーツで培った人間力は豊かな人生を送る基盤となるはずです。

日光スポーツクラブは、子どもたちが本気で取り組める質の高いスポーツ環境を構築していきます。また、ゆるく楽しくスポーツをしたいというニーズも受けとめて、普及拡大にも力を注いでいきます。

子どもが幼少期からスポーツに親しみ、スポーツの恩恵を享受しながら成長できるよりよい環境を、私たち指導者、スタッフ、保護者の力を結集して、築きあげていきましょう！！